

当事者ヒアリング（昭和児童センター）

【日時】 令和6年2月6日（火） 午前11時30分～12時10分

【場所】 総合福祉センター4階和室

【出席】 昭和児童センター母親クラブ 保護者8名、児童センター職員

【概要】

令和6年度末の「こども計画（仮称）」策定などに向け、当事者の意見聴取を求める声強いことなどを受け、母親クラブの行事（味噌づくり）の後に時間を取っていただき、簡単な趣旨説明の後、各自、想いを発言してもらった。

各自から発言いただいた後、向こう5年間の「計画」を作る大事な時期であることを再確認し、本日言い足りなかったこと、後日家族や友人と話す中で思いついたことなどは、市へ直接メールや児童センター職員を經由して市に伝えてもらうことを依頼して終了した。

【詳細】

○参加者 →市

○飛騨地方には木がたくさんあるが、岐阜市の木遊館（木の温もりを感じながら遊べる施設）のような環境がない。雨天の時に遊べる施設が少ない。

→飛騨の里の下にある「森のエコハウス」を大改修し、木遊館のサテライト施設にする動きがある。室内の遊び場は、他にも様々に考えていきたい。

○土日も空いている児童館・児童センターがあつてありがたいが、駐車場がない。高温や積雪の時には駐車場と施設が離れていて小さな子連れでは利用しづらい。

→ごもつとも感じる。徒歩でのアクセスを想定した古い施設が多く、すぐには難しいが、様々な方法を考えていきたい。

○高山市のインフルエンザ予防接種の助成を受けても、自己負担が2,500円×2回×子ども2人で1万円かかった。友人が住む下呂市は、自己負担300円/回と聞いてその差に驚いた。

○保育園・幼稚園で子どもが風邪をもらってきて、保護者にうつって医療にかかったり、仕事を休んだりしなければならない。保護者に対する医療費の支援があると良い。

→ひとり親家庭の保護者には医療費の支援があるが、二人親にはない状況である。

○「こども誰でも通園制度」とあるが、自分は主人の実家が高山にあるので、子どもを預けることができるが、そういった環境にない保護者も少なくない。この4月1日から仕事復帰するが、保育園で「ならし保育」を求められたり、幼稚園では春休み期間の預かり保育がなかったりする。そういった場合には、保育園の一時保育やファミリーサポート事業が使えるのか。実家に預ける場合も週に5日にもなると祖父母に負担を掛けてしまう。困った時、条件に関わらず子どもを預かってもらえるサービスがあるとありがたい。

→「こども誰でも通園制度」のモデル事業が開始され、数年後には全国統一に導入されると聞いているが、内容としては一時保育に近いと承知しており、高山市では大きな変化はないと考えている。

○幼稚園に入っていると、一時保育は使えなかったのでは？

→一時保育は市民以外（里帰り出産中）でも使える位なので、幼稚園の在園児でも利用できるはず

である。休日保育は、市内保育園の在園児に限るといった制限があったはず。
→「ならし保育」はごもつともだと思いつつ、聴かせてもらった。

○小児科に限らず、病院がいつも混んでいる。小児科の先生方も非常に高齢化している。こども達が大きくなるまで安心して医療が受けられるか、非常に心配している。子どもを3人連れて何時間も待って、受診することは難しい。

→市では総合病院への支援は行っているが、開業医の支援まで手が回っておらず、課題と捉えている。この春の組織見直しにより、「こども未来部」と合わせ「医療部」もできると聞いているため、一層力を入れていくものとする。子育て中の保護者の今のような声を、市に届けていただくことが重要と考える。

○岐阜市の小児科では、当日朝にネット予約し、今何人待ちだとか、もうすぐ呼ばれそうだといったことがスマートフォンから簡単に確認でき、家でゆっくり待っていられる。高山では予約ができず、狭い待合で病気でない兄弟も長時間待たなければならず、病気をもらったり、ぐずったりしてしまう。

→非常にごもつともであり、申し訳ないと感じる。関係課に意見をしっかりと伝えたい。

○子どもの傷口が開いてしまい、皮膚科では外傷は見てもらえず、外科を探したが市内には専門医が無く、保健センターに聞いたら小児科で見てもらうこととなった。別の機会に小児科を避けて耳鼻科に行こうと思ったが、耳鼻科もいっぱいなことが多く、医療を利用するハードルが非常に高い。全体的に、医療を受けやすくなるような政策をお願いしたい。

○市役所に手続きに行った際に、時間がかかるためプレールームのようなちょっとした場所があると、子どもが退屈せずに過ごせるので考えてもらいたい。授乳やオムツ替えスペースの充実もお願いしたい。

→「こども未来部」へと移設する際には、ちょっとした子どもの遊び場を設ける予定としている。授乳スペースも検討させてもらう。

○子どもの遊び場など比較的充実していて、過ごしやすい土地とは感じているが、宅配の食事などをたまに利用したくても、見当たらずに不便である。そういった情報は、どこを見れば良いか分からない。

→都会のような食事の宅配サービスはごく限られている。子ども宅食というお弁当の宅配サービスに取り組む子育て支援団体に対する助成を市が行っている。

○子ども宅食（子ども食堂）を一般家庭も利用して良いのか？

→経済的に困って見える家庭が利用する場所（サービス）といったイメージがあるかもしれないが、身近な居場所として、利用者を限定しない方針で活動している団体がほとんどと思っている。

○子どもを連れてご飯を食べに行ける飲食店が少ない。キッズスペースがある飲食店が少ないので、増えていくと助かる。

→資料に「こどもまんなか」とあるが、社会全体を子育てしやすく変えていくことが求められている。地方都市なので、昔ながらの店が多い状況だが、変えていきたいと考えている。そのためには、皆さんのような子育て当事者が、まちに関心を持って、今日のように意見を出してもらうことが重要と考える。

以上